

わがままな コピーと がっこう ともだち 学校の友達

なか
3巻：仲よしのルール



文 さくらい ゆうせい
絵 うすい ゆみこ

sample

ここは ^{ことり} 小鳥たちが暮らしている

^{もり} ^{なか} ^{ちい} ^{がっこう}
森の中の 小さな学校。

^{じゅぎょう} ^{はじ} 授業が始まる チャイムが ^な 鳴ると

^{せいと} ^{あつ}
生徒たちが 集まってきました。

キーン
sample
カーン
ユーン
ユーン



「ではいつものように、名前^{なまえ}を呼^よべたら
手^てを^あげて返^{へん}事^じをするように！」

「むらさき色のラム！」 『はい！』

「青^{あお}い足^{あし}のフーリー」 『はい！』

「オレンジ色のサニー！」 『はい！』

「緑^{みどり}色のバトラー」 『はい！』

「藍^{あい}色のコビー」 『はい！』

「黄^{きいろ}色のライライ！」 『はい・・・』

「ピン^{いろ}ク色のモモ！」 『はい・・・』

こうちようせんせい じゆんばん ぜんいん なまえ よ あ
校長先生は、順番に 全員の名前を 読み上げました。

すると モモとライライが、何^{なん}だか浮^うかない顔^{かお}をして
います。

「どうした モモとライライ！
何^{なん}だか元^{げん}気がない返^{へん}事^じだったぞ！」

『だって先生^{せんせい}！ サニーが 私^{わたし}の事^{こと}を
「モモは可愛^{かわい}くない」 って言う^いんです・・・』

『先生^{せんせい}！ 私^{わたし}は「一人^{ひとり}ぼっちで ライライは寂^{さび}しい
んだろ！」 って 言^いわれました・・・』



「サニー！そんな事を言ったのか？^{こと い}

モモもライライも、ワシにとっては

とても可愛^{かわい}い生徒^{せいと}なんじゃぞ！」

サニーは言^いいました。

「オイラはそんな事は言^{こと い}ってない！

モモがみんなをこき使^{つか}うから、

『本当^{ほんとう}は不安^{ふあん}だからかわい子^こぶってるんだろ！』

って言^いったんだ。



そしてライライは、自分^{じぶん}だけ早^{はや}く飛^とんで

みんなを置^おいて行^いくから、

『一人^{ひとり}だけ早^{はや}くても寂^{さび}しいんだろ！』 っ

て言^いったんだ！

今日^{きょう}も二人^{ふたり}はケンカして、なかなか集^{あつ}まらない。

だから オイラは みんなのために言^いったんだよ！

わる悪い^{わる}のはモモとライライ！ オイラは悪^{わる}くない」



「そうか・・・こりや〜困ったのう。

サニーはサニーで みんなの ためをおも
言ったのか！

でもどうしてだろう？ サニーに言われると
腹が立って 余計ケンカになるのは・・・

誰かわかるかな？」



その時 ラムが手をあげて 言いました。

『はい先生！ モモも ライライも、そしてサニーも！
学校のルールを 忘れてると思います』

「そうじゃ！ では 新人のコビーも 入学した事だし
ラムから もう一度 学校のルールを3つ！
みんなに 発表してもらえないかな！」



ためしよみ

は

ここまでです